

その名大口

※教育実習（6/2～6/13）を受けた2人の卒業生にメッセージをいただきました。大口高校を母校とする教員がたくさん出てくることを望みます。また、学年朝礼の講話は今回も充実しています。掲載できなかった残りは、次回に回します。

ワールドカップとゴミ拾い

ブラジルでのサッカーワールドカップ、サムライブルーの熱戦に一喜一憂している。次戦のコロンビア戦に勝利し、何とか一次予選を突破して欲しい。ところで、世界が注目しているワールドカップ報道で、日本人サポーターのゴミ拾いが賞賛されている。日本人のゴミ拾いが話題になり世界から賞賛されたのは初めてだが、日本がワールドカップに初めて参加した1998年のフランス大会でも、日本人サポーターは黙々とゴミ拾いをしていた。こうしたことは日本人にとっては当たり前のことである。遠足でも「来たときよりも美しく」と、掃除をして帰るのが日本の学校文化である。昨年度現三年生の修学旅行に同行させて頂いたが、朝のバイキングでテーブルの皿をみんなで片付けていた。合宿等で先輩から受け継いできた文化なのだろう。元気な挨拶とともにすがすがしい思いをしたことを覚えている。2年生は、先日「地域貢献」と称して通学路の清掃やゴミ拾いをした。ゴミ拾いをした人はゴミを捨てることはない。大口高校生は、自分が食べたゴミを置き去りにして席を立つことはないし、ゴミを拾うサポーターがいたら一緒にゴミを拾うだろうと信じている。



「地域貢献」（地域のために何ができるか、考えるきっかけに）の実践。南日本新聞にも取り上げられました。

実習生による後輩へのメッセージ I 塩向 歩（福岡教育大学 教育学部 中等家庭）

大口高校で教育実習を行うことができ本当に良かった。私は今回、教える立場として大口高校に来ましたが、実際は皆さんに教わることの方が多く、この実習を通して今後に向けた課題を見つけることができました。実習を乗り越えることができたのは、ひとえに先生方のご指導や生徒の皆さんの優しさと協力のおかげだと思っています。

高校時代の思い出は、その後の人生の糧となり財産となります。辛いとき・苦しいとき、心の支えとなってくれます。3年間はあっという間です。その3年間でどれだけ充実させられるかは皆さん次第です。後悔のない学生生活を送るためにも「今」に全力を尽くし、「今」を精一杯楽しんでください。そして高校生のうちにいろいろなことに挑戦して、自分の視野や可能性を広げてみてください。時には失敗したり挫折することもあると思います。しかしその経験は、将来どこかで必ず皆さんを助けてくれる

でしょう。失敗を恐れずに積極的に挑戦してってください。皆さん1人1人が後悔のない、充実した高校生活を送ることができるよう祈っています。

実習生による後輩へのメッセージⅡ 山口 菜未（崇城大学 生物生命学部 応用生命科学科）

高校を卒業したころは、まさか教育実習生として戻ってくるとは、全く思いませんでした。ではなぜ、教育実習に来たかと言いますと、私には夢があるからです。それは「科学を展開することに少しでも役立てる人になる」です。そのために、教員の免許を取り、生徒のみなさんに「科学の素晴らしさ」を伝えたいと思い、ここ大口高校に来ました。



校内授業公開期間（6/2～6/13）の一コマ

大口高校に来て、最初に思ったのは、「変わったな」ということでした。自分がいた時になかったことが増えていて、私は驚きました。しかし実習3日目で私は「変わってないな」と実感しました。全く逆のことだったのに、今もこの二つのことを感じています。それはなぜか最初はわかりませんでしたが、ここ、大口高校の「根」が変わってないのだと実習最後に気づきました。昔から変わらない、生徒の明るさと元気と先生方の優しい思い。実習生という立場で見て、それを感じました。最後となりますが、みなさんにも一人一人夢や目標があると思います。その道の途中には壁や谷や登り坂などの障害があると思います。苦しい思いをしたり、道を変えなければならない時があったりすると思いますが、その先にあるものを信じて、みなさんの思った通りに進んでいけば良いと思います。ここ大口高校で実習ができて本当にうれしかったです。

〈高みに辿り着くためには〉 1学年 郡山潤也先生

みなさん、ついにワールドカップが始まりましたね。今日は、日本代表の長友選手について話そうと思います。僕は大学生のころ、たまたま長友選手と高校の同級生で同じサッカー部に所属していた方と出会いました。その方に高校時代の長友選手のことを聞いてみると「あいつは下手くそだったよ」と、言われました。その事がすごく衝撃的だったので、長友選手について調べてみると、確かに高校時代、スター選手ではなく無名の選手だったみたいです。じゃあ、なぜ長友選手は日本を代表するような選手になれたのでしょうか。



当然、自分の夢・目標に対する気持ちはすごく強いと思います。「プロになる」という夢はもちろん、高校時代なら「試合に出る」や「選手権で優勝する」などの目標があったはずですが。その目標に対する気持ちは強かったからこそ、とことん努力することができたのではないのでしょうか。しかし、ただ努力するだけではいけません。長友選手は、自分の弱点を見つけて、そこを改善すれば、さらに高みに近づけると考えたそうです。例えば、今、長友選手のストロングポイントと言え、無尽蔵のスタミナや体の強さです。しかし、これらはむしろ、高校入学時では弱点だったみたいです。自分の弱点を克服するという事はすごく大変で時間のかかることだと思います。しかし、強い気持ちがあるからこそ頑張り続けることができ、今では弱点どころか自分のストロングポイントになっています。強い気持ちを持ち、弱点を改善していくことで長友選手は日本代表にまでなりました。

みなさんにも、どの分野でもいいので、高みを目指してほしいと思っています。